

アルバイト経験が作業療法学生の社会人スキルに及ぼす影響

作業療法士学科夜間部

【はじめに】

本研究の目的は作業療法学生のアルバイト経験や対人関係に関する認識と社会的スキルの関係や影響する要因を明らかにすることである。作業療法職は身体的な健康だけでなく、心理的、社会的な側面も含め対象者の生活すべてにかかわるアプローチを行うことが求められる。ゆえに作業療法学生にとって対人関係能力を含む社会的スキルを獲得することは重要である。大阪医療福祉専門学校夜間部1年生から3年生103名を対象とし、社会的スキルとアルバイト経験・時間・職種や対人関係スキルの認識調査を質問紙により行った。

【方法】

1. 調査対象

大阪医療福祉専門学校作業療法士学科の1年生から3年生までの103名を対象とした。

2. 質問紙

質問紙は①基本属性、②アルバイト経験、③社会的スキルを含む構成とした。各質問項目の概要は以下のとおりである。

1) 基本属性

性別や年齢、学年について質問した。

2) アルバイト経験

アルバイト期間や職種、勤務時間や日数について質問した。

3) 社会的スキル

3. 倫理的配慮

質問紙調査は、講義終了後の集団に対して研究目的と方法、以下の内容を文書および口頭で説明し、回答用紙の投函をもって研究への参加同意と判断した。

【結果】

1. 対象者の属性

対象者は質問紙を配布した103名中、回収された103名(回収率100%)で男性が44名、女性59名、学年ごとでは1年生が40名、2年生が23名、3年生が40名であった。アンケート結果からアルバイト経験は1年生、2年生、3年生ともにほとんどが経験者であり未経験者は1年生で2名のみだった。アルバイト経験年数は2年以上経験者が3年生で一番多く33名だった。

職歴では医療・福祉職経験者が3年生で23名、2年生で7名、1年生で8名であり、他学年と比べても大きな差が見られた。社会的スキルでそれぞれの学年での6つの下位尺度の平均得点はストレス処理のスキルが33.5でストレス処理のスキルが最も高いという結果となり、ストレス処理のスキルはストレスへの耐性を高め同時にストレスを緩和・軽減することが必要であり、自分を非難する相手の話を聞き、非難される理由を考え非難に答える方法を実行しなければならないこのような経験は学生生活では高めにくいものであったと考え、医療・福祉職に多く勤めていた3年生が1年生、2年生と比べて高かったと考える。

【考察】

3年生が2年生、1年生と比べてストレス処理のスキルが高かった原因として学生生活でのアルバイト経験の職歴の多さや就業時間、医療、福祉職への従事などが挙げられる。これらは対人関係に関する経験が多いことが社会的スキルを高めていたのではないかと考えられる。

【まとめ】

1. 学生生活において対人関係で苦勞したとき、一人で対処するだけでなく、複数の対処法をもつ学生の方が社会的スキルを高めていた。

2. 対人関係に対する経験が多い職業(医療、福祉)経験が多いことが社会的スキルを高めていた。

【文献】

- 1) 武田かおり、鉢呂美幸・他：看護大学生の社会的スキルに関連する生活および実習体験。地域と住民・道北地域研究所年報。30, 2012, 21-27.